



平成 19 年 9 月 28 日

各 位

会 社 名 株式会社アドバンスト・メディア  
代表者名 代表取締役社長 鈴木 清 幸  
(コード番号：3773 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役経営戦略部長 吉 田 一 也  
(TEL. 03-5958-1031)

URL <http://www.advanced-media.co.jp>

### 平成 20 年 3 月期 中間期及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 5 月 15 日に公表した平成 20 年 3 月期中間（平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日）の業績予想及び平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日）の業績予想について、下記のとおり修正いたします。

#### 記

##### 1. 個別業績

( 1 ) 中間個別業績予想数値の修正（自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 9 月 30 日）

( 単位：百万円 )

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A )	700	405	408	413
今 回 修 正 予 想 ( B )	601	785	761	2,278
増 減 額 ( B - A )	99	380	353	1,865
増 減 率	14.1%			
前期実績(平成 19 年 3 月期中間)	720	460	444	444

( 2 ) 通期個別業績予想数値の修正（自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 3 月 31 日）

( 単位：百万円 )

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A )	1,840	620	625	635
今 回 修 正 予 想 ( B )	1,500	1,310	1,289	2,811
増 減 額 ( B - A )	340	690	664	2,176
増 減 率	18.4%			
前期実績(平成 19 年 3 月期)	1,539	1,043	1,010	1,023

## 2. 連結業績

(1) 中間連結業績予想数値の修正(自平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,555	490	511	556
今回修正予想(B)	1,201	980	1,041	2,375
増減額(B-A)	354	490	530	1,819
増減率	22.7%			
前期実績(平成19年3月期中間)	1,584	551	558	627

(2) 通期連結業績予想数値の修正(自平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	4,195	734	776	816
今回修正予想(B)	2,775	1,554	1,577	2,911
増減額(B-A)	1,420	820	801	2,095
増減率	33.8%			
前期実績(平成19年3月期)	3,111	1,262	1,325	1,365

## 3. 修正理由

### 3.1 中間期業績

#### 【個別】

- (1) 当期においては、製販一体構造への組織変更により、営業単価の大きなソリューションビジネスへの展開を行いました。当ビジネスにおいて経営資源を重点配分したことから、その反動として短期的に売上が見込める既存製品販売が縮小する結果となり、売上が減少いたしました。原価率および人件費等の販売管理費の低減については当期からの経営資源の集中による効果が現れ始めておりますが、本日(平成19年9月28日)発表いたしました「(訂正)債権等の取立不能または取立遅延等のおそれに関するお知らせ」ご参照の通り、取引先の業務停止命令により債権に対する損失を計上することとなりました。これにより経常利益が大幅に下回る結果となりました。
- (2) ソフトウェア資産等の前倒し償却において、約550百万円の特別損失を計上する予定であります。
- (3) 当社が保有する原材料について、「棚卸資産の評価に関する会計基準」に基づき、約93百万円の特別損失を計上する予定であります。
- (4) 当社が保有する当社連結子会社エムシーツ(株)株式の実質価額が低下したため、「金融商品に関する会計基準」に基づき、約800百万円の子会社株式評価損を特別損失として計上する予定であります。
- (5) 本日(平成19年9月28日)発表いたしました「(訂正)債権等の取立不能または取立遅延等のおそれに関するお知らせ」ご参照の通り、平成19年6月30日以前発生 of 売掛債権未回収分136百万円について、当第1四半期会計期間(平成19年6月30日)の財務諸表において貸倒引当金を設定し費用計上いたしました。平成19年7月1日以降発生 of 売掛債権未回収分50百万円についても、貸倒引当金を設定し費用計上する予定であります。また、未納品在庫高等101百万円について、特別損失を計上する予定であります。

【連結】

- (1) 連結子会社エムシーツー(株)は、昨年度から注力しているオフィス用品通販ビジネスが順調に進展したものの、主力の通信回線販売は需要が一巡したことと、競争の激化から新規受注獲得が不振であったため、売上高が減少いたしました。
- (2) 単体における連結子会社エムシーツー(株)株式の評価損計上にともない、のれんの減損を行い、約650百万円の特別損失を計上する予定であります。その結果、純利益では大幅な赤字となる見込みです。

3.2 通期業績

【個別】

- (1) 通期につきましては、当中間期の業績予想を受け、売上高、経常利益、純利益について前回予想を下回る見込みです。下期におきましてはソリューション事業と製品販売事業を分離し、選択と集中を実践してまいります。売上高、利益において効果が現れるのは来期以降と見込んでおります。その結果、経常利益が大幅に下回る結果となる見込みです。

【連結】

- (1) 連結子会社エムシーツー(株)は、主力の通信回線販売の新規受注獲得が、上半期の受注状況から下半期も引続き厳しい状況が続くと見込まれます。オフィス用品通販ビジネスにおいても予想より伸びが少なく、また、今期大幅に売上貢献すると期待していたアフィリエイト事業が、想定以上に競合事業者の参入があり、厳しい状況が続くことが予想されることから、売上高、経常利益、純利益について減少する見込みです。
- (2) 純利益につきましては、単体の大幅な赤字と当中間期におけるのれんの減損から、通期でも赤字となる見込みです。

4. 経営責任に対する役員減棒処分の実施について

今回の業績修正の結果を真摯に受け止め、その経営責任を明確にするために、取締役報酬の減額を行うことといたしました。

職 位	氏 名	減 額 率	期 間
代表取締役社長	鈴木 清幸	月額役員報酬の50%	業績予想達成迄
取 締 役	田井 祥雅	月額役員報酬の30%	6ヶ月
取 締 役	藤田 泰彦	月額役員報酬の20%	6ヶ月
取 締 役	立松 克己	月額役員報酬の10%	6ヶ月
取 締 役	吉田 一也	月額役員報酬の10%	6ヶ月

5. 今後の取り組みについて

今後の取り組みにつきましては、本日(平成19年9月28日)発表いたしました「経営改善計画」をご参照ください。

以 上

上記業績予想につきましては、本資料の発表日現在において、将来に関する前提・見通し・計画に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確定要素を含んだものです。実際の業績は、様々な重要な要因により、予想数値と大きく異なる場合がありますので、これら業績等の予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控え下さい。